

■欧州：欧州の主要電力会社の2011年CO₂排出量は増加

2012年11月27日付報道によると、コンサルタント会社PWCとエネルギー情報誌エネルギープレスは11月27日、欧州主要電力会社のCO₂排出量に関する調査結果を発表した。2011年は経済危機や暖冬などが原因で、欧州の主要電力会社20社の発電電力量は前年比で1.7%減少したものの、CO₂排出量は前年比1.1%増の7億1,300万トンであった。原子力発電所廃止前倒しを進めるドイツが一部の原子力発電所を運転停止したことで、石炭火力発電による発電電力量が増加したこと、また経済危機の影響が大きい南欧諸国がガス火力発電よりも安価な石炭火力発電を増やしたこと、さらに降雨量不足を背景に一部南欧諸国で水力発電が不振であったことからCO₂排出量が増加した。20社のCO₂排出原単位は前年比2.7%増の0.338kg-CO₂/kWhとなり、2007年以来連続で減少していたものの増加に転じた。会社別では、原子力発電と水力発電の割合が大きいフランスのEDFのCO₂排出量が前年比で12%減を記録したのに対し、フランスのGDFスエズのCO₂排出量は25%増加した。EDFは石炭火力発電の比率の大きいドイツの子会社EnBWを売却した影響が大きく、GDFスエズは英国のインターナショナルパワー（現社名：GDF SUEZ Energy International）を完全に買収したことで火力発電の比率が増えており、これらの要因が、両社の差を広げる結果を招いた。